

〈特集「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」他〉

日本語播磨方言（旧印南郡）：

「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「（連用修飾的）複文」「情報構造と名詞述語文」「情報標示の諸要素」「否定，形容詞と連体修飾複文」：データと解説

Japanese Harima dialect (the former Innami County):

Data and explanations of 'Passive expression', 'Aspect', 'Modality', 'Voice and related expressions', 'Expressions of possession and existence', 'Transitivity', 'Complex sentences of adverbial modification', 'Information structure and nominal predicate sentences', 'Markers of information structure' and 'Negation, adjectives, and complex sentences of adnominal modification'

鈴木 博之

Hiroyuki Suzuki

京都大学国際高等教育院
ILAS, Kyoto University

要旨：本稿は日本語播磨方言に属する旧印南郡（現加古川市）志方町の方言について，特集補遺「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「（連用修飾的）複文」「情報構造と名詞述語文」「情報標示の諸要素」「否定，形容詞と連体修飾複文」（『語学研究所論集』第14-23号，2009-2018，東京外国語大学）に寄与するものである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on 'Passive expression', 'Aspect', 'Modality', 'Voice and related expressions', 'Expressions of possession and existence', 'Transitivity', 'Complex sentences of adverbial modification', 'Information structure and nominal predicate sentences', 'Markers of information structure' and 'Negation, adjectives, and complex sentences of adnominal modification' (*Journal of the Institute of Language Research* 14-23, 2009-2018, Tokyo University of Foreign Studies) on the Sikata variety of the former Innami County (present Kakogawa City) of the Harima dialect area of Japonic.

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002001057>

キーワード：受動表現，アスペクト，モダリティ，ヴォイスとその周辺，所有・存在表現，他動性，（連用修飾的）複文，情報構造と名詞述語文，情報標示の諸要素，否定，形容詞と連体修飾複文

Keywords: passive, aspect, modality, voice, possession and existence, transitivity, complex sentence and adverbial modification, information structure and nominal predicate, negation, adjectives and adnominal modification

はじめに

本稿では，日本語播磨方言（播州弁；都染 2018b）に属する旧印南郡東志方村（現加古川市志方町；加古川右岸）の方言について記述する。発話協力者は，同地域に生まれかつ言語形成期を同地で過ごした筆者の母・鈴木美枝子（1943年生まれ，両親とも同地域出身のはえぬき）である。筆者もまた播磨方言を母語とするが，旧加古郡（現加古川市域；加古川左岸）地域の方言によるところが大きい。この2



本稿の著作権は著者が保持し，クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種の変種において、文法判断における不一致はまれであるが、アクセントや使用語彙に異なりを認める。ただし、それが年代差である可能性は否定できないが、体系的な検証は行っていない。

播磨地域の方言は方言学上東西に分かれ、西播と神戸播磨になる（都染 2018a）。この分類に従えば、志方町の言葉は神戸播磨方言に分類される。これより下位の分類は未見であるが、母語話者の感覚によると、加古川市域では、川の右岸左岸よりも、海側と山（内陸）側で言葉の差が大きく（志方町は山側）、筆者も同様の感覚がある。両者の中間地域は、江戸時代より主たる交通路として機能していた西国街道（現在では国道2号線が沿っている）が貫く。

また、違いは大きくないものの、志方町の場合は東志方・中志方・西志方に分かれるという。これは、旧行政区分である東志方村・志方村・西志方村に対応する。各村内のコミュニティの単位はさらに小さく分けられる（詳細は末尾の付録を参照）。それを口語では「むら」と呼び、行政区分としては「あざ（字）」となる。主要な「むら」は寺を中心に発展している。発話協力者の年代になると、言語形成期を過ごす小学校が土地のことは共有する空間として機能するものと見られ、東・中・西の違いは、旧行政区分とともに、ほぼ小学校の校区と一致する。中学校は中志方に1つあり、そこでことばの違いに気づくようになるという。

以下、各例文について、見出しを調査票の例文形式とし、続いて(A)ひらがなと符号による簡易音声表記、(B)語源が分かるよう調整したかな漢字を交えた表記、の順で記す。同一の項目で複数の形式が現れる場合には、列挙しておく。グロス省略するが、必要な個所には解説を添える。

(A)部分の表記方法についての詳細は次のようである。 欠

- 記述対象言語がかなで表記可能な範囲の音韻体系を示すため、分節音の表記にはひらがなを用いる。なお、鼻濁音（軟口蓋鼻音）は音声的にも認めない（間投詞を除く）。
- 長音は一貫して「ー」を用いて示す。3モーラ目以降に生じる長音は一定せず、長音になってもなくてもよい語がある。また、長音が期待されるところに長音が生じない語もある。長音の前後ともアクセント核を持ちうる。このような現象から、かな表記で十分対応できると言える。
- アクセント単位ごとの分かち書きを行う。自立語について、最小のアクセント単位は2モーラになる。語末の助詞が単独のアクセント単位となる場合、1モーラも許容される。
- 自由変異による省略可能な音形は[]で囲って示す。例文に合わせて追加可能な音形は（ ）で囲って示す。
- アクセントはいわゆる京阪式（Kishie 2021）であり、語頭の高低とアクセント核の2段階に分けて記述できる。表記方法は次の通りである。語頭の高低について、高起式は無標とし、低起式には鋭アクセント（'）をアクセント単位の初頭に置く。一方、アクセント核には引用符（'）を置く。アクセント単位が2モーラ語のみで最終音が下降調を示す場合、すなわち2モーラ語のモーラ末にアクセント核がある場合、語末に引用符（'）を置く（符号の選択については Suzuki et al. 2024 を参照；引用符の使用は Angeles 2023 にも見られる）。低起式はアクセント核の手前のモーラで急激な上昇を見せる。アクセント核の前に4モーラ以上ある場合、核から数えて2番目までのモーラが上昇調をとり、それ以前のモーラは低いままである。
- 文末・発話末における韻律特徴について、上昇調が義務的または習慣的かつ自然的である場合、末尾に右上がりの矢印（^）を付し、下降調が義務的である場合、末尾に右下がりの矢印（v）を付す。

なお、例文は発話協力者が同じむらの中で同世代の人（きょうだい内も含む）と話すときに使う形式を主として記録した（調査票に発話コンテキストが指定されている場合を除く）。言葉遣いには性差があり、発話協力者の属性から女性のものが反映される。ただし、個人変異（idiolect）が紛れ込んでいる可能性は排除できない。

調査票内で丁寧語が意図されている場合は，例文にそれを反映するが，あくまでも自然だと判断されるものを優先して記述する．調査時には，指定の調査票以外にも福盛(2022)の大阪方言を参照し，発話協力者と適宜言語使用の相違を議論した．なお，調査票にある A，B といった自由形式を挿入する箇所にはできる限り多くの語例を入れるため，状況に合う範囲で異なる語句を含めた．

なお，調査を通して発話の場面を考えると調査票にあるような動詞の終止形による言い切りは不自然になることが多いとの注意喚起があった．発話に情報の伝達機能があることを考えると，文末に何らかの助詞を付加するのが自然であるという（定延 2019 参照）．この現象については，折に触れて以下の文中で触れることにする．

1. 「受動表現」（語研論集 第 14 号）

1-1 A は B に叩かれた．

(a)

さ'とーくん 'すずき'くんに どつか'れた
佐藤君 鈴木君に どつかれた

(b)

さ'とーくん な 'すずき'くんに どつか'れてん
佐藤君 な 鈴木君に どつかれてん

名字の呼び捨てはあまり習慣的でないので，「'くん」づけで示す．なお，「'くん」は名字と同一のアクセント単位に入る．先行する名字にアクセント核がある場合それがそのまま有効となり，そうでない場合は，「'くん」の直前にアクセント核がある．

なお，取り立て助詞の「は」は現れてもよいが，あまり自然であるとはみなさない．例 b のように，「は」の位置に独立のアクセント単位をもつ「な」（1 モーラを許容する形式）が現れることが比較적으로認められ，その場合，文末に「てん」がつく（ここでは「どつか'れてん」）のが自然な発話となる．

1-2 A は B に足を踏まれた．

'たか'はし'くん 'なかた'くんに あ'し ふま'れた
高橋君 中田君に 足 踏まれた

(1-1)のように，「な」で取り立てを表し，文末を「ふま'れてん」とすることもできる．

1-3 A は B に財布を盗まれた．

いとー'くん わたなべ'くんに さいふ ぬすま'れた
伊藤君 渡辺君に 財布 盗まれた

(1-1)のように，「な」で取り立てを表し，文末を「ぬすま'れてん」とすることもできる．

1-4 昨日の夜、私は赤ん坊に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。

‘ゆーべ あ’かちゃんに なか’れて ‘いっこ’も ね’れへんかった
タベ 赤ちゃんに 泣かれて 一個も 寝れへんかった

調査票のように2文に分けて言うのは自然ではない。なお、「眠る」と「寝る（横になる）」は区別なく「ねる」と言う。

1-5 新しいビルが（Aによって）建てられた。

あた’ら’しー び’る ‘た’ちよ’つた
新しい ビル 建’ちよ’つた

「た’てら’れた」は行為者を明示しない場合被害者意識を含意する（ここでは「ビルのせいで日当たりが悪くなった」など）ため、使われない傾向にある。

1-6 カナダではフランス語が話されている。

か’なだや’つたら ‘ふらん’すご ‘しゃべ’つりょ’ー
カナダや’つたら フランス語 喋’つりょ

「はなされよ’ー」も言える。「しゃべつりょ’ー」も「はなされよ’ー」も「カナダでフランス語が話されている」ということが新情報のように理解される。この観察は津田(2022)などのアスペクトに対する理解と異にする。

1-7 財布が（Aに）盗まれた。

さいふ （あきすに） ぬすま’れた
財布 （空き巣に） 盗まれた

発話において、行為者の有無にかかわらず成立する。

1-8 壁に絵が掛けられている。

かべに ‘えー か’か’つと’ー
壁に 絵ー 掛’か’つと

「か’けられと’ー」も言えるが、被害者意識を含意するように聞き手に解釈される可能性があるため、避けようとする。

1-9 AはBに／から愛されている。

いけじま'くん なかむらせ'んせに すかれと'ー
池島君 中村先生に 好かれとう

「すかれる」とは言うが、「すく」は通常使われず，代わりに「す'き（や）」となる。

「先生」を意味する語は「せ'んせ」が最も自然であるが，「せ'んせー」も可である．4モーラ語で最終モーラが長音になる場合，3モーラの読みとなるのが通例で，かつ規則的である．この特徴は語中にアクセント核が存在することと関連があるように見える．標準語で「先生」と同音であるがアクセント核のない「先制」「専制」「宣誓」は，播磨方言で常に「せんせー」のように4モーラで発音される。

1-10 AはBに／から「…」と言われた。

まるやま'くん 'ひらい'くんに き'のー う'ちの 'ぶた' 'にげ'てん ゆわ'れた
丸山君 平井君に 「昨日 家の ぶた 逃げてん」 言われた

第三者の発話を引用するとき，通常「と」のような補文標識は入らない。

1-10-a AさんはBさんに呼ばれて，今Bさんの部屋に行っています。

ふじしろさん 'やまだ'さんに よば'れて
藤城さん 山田さんに 呼ばれて
'いま 'やまだ'さんの へ'や いっ'と'ー
今 山田さんの 部屋 行っとう

第2文において，「いま いっ'と'ー」だけでも，その行為者は「ふじしろさん」だと理解され，誤解は生じない。

1-10-b BさんがAさんと呼んで，Aさんは今Bさんの部屋に行っています。

おーむらさん 'たま'ださん よ'んで
大村さん 玉田さん 呼んで
'たま'ださん 'いま おーむら'さんの へ'や いっ'と'ー
玉田さん 今 大村さんの 部屋 行っとう

第2文において，「いま いっ'と'ー」だけだと，その行為者はいずれとも取れる．これは統語的な問題であるとともに，動詞「よ'んで」も多義的（主に「(電話などで) 連絡しておく・声をかけておく」と「呼び出す（ことで来てもらう）」）であることにもよる。

2. 「アスペクト」(語研論集 第15号)

2-1 ~さん(固有名詞)は／あの人(は)もう来た.

(a)

‘はら’さん ‘もー きて’やった
原さん もう 来てやった

(b)

あの ひ’と ‘もー き’た
あの 人 もう 来た

この例の「きて’やった」は「来る」の「て形敬語」である。以下、(2-2)から(2-8)まで、同様に「て形敬語」と「通常形」をペアにして例を提示する。なお、敬語形には「はる形敬語」も用いられるが、記述対象の方言形式としては異質で、いわゆる「よそ行きの表現」の一種であるとの意識がある。

「て形敬語」形は、アクセント核の位置と数に注意しなければ誤解が生まれる。「きてやっ’た」は「(わざわざ)来てあげた」を、「き’て やっ’た」は「来て(何かを)した」を意味する。

2-2 ~さん(固有名詞)は／あの人(は)もう来ている.

(a)

‘よこ’やまさん ‘もー きとって’や
横山さん もう 来とってや

(b)

あの ひ’と ‘もー きと’ー
あの 人 もう 来とう

2-3 ~さん(固有名詞)は／あの人(は)まだ来ていない.

(a)

ひえださん ‘まだ きとって’ない
稗田さん まだ 来とってない

(b)

あの ひ’と ‘まだ きて’へん
あの 人 まだ 来てへん

2-4 ~さん(固有名詞)は／あの人(は)まだ来ない.

(a)

いなおかさん ‘まだ きて’やない
稲岡さん まだ 来てやない

(b)

あの ひ'と 'まだ こ'ーへん

あの 人 まだ 来うへん

2-5 ～さん（固有名詞）は／あの人はもう（すぐ）来る．

(a)

ひらおかさん 'もー きて'や

平岡さん もう 来てや

(b)

あの ひ'と 'もー 'くる

あの 人 もう 来る

2-6 （あ！）～さんが来た！（その人が来るのに気づいた場面での発話）

(a1)

'しお'たさん きよって'や ['で]

塩田さん 来よってや [で]

(a2)

わしおさん き'たった ['で]

鷺尾さん 来たった [で]

(b1)

'ぬまたさん きよつ'た ['で]

沼田さん 来よった [で]

(b2)

な'ずみさん き'た ['で]

泥さん 来た [で]

(a1, b1)は訪問者が遠目に確認できた場合の発話で，(a2, b2)は家の窓から訪問者がやって来るのを（まさに到着する手前で）認めたような場合の発話である．なお，調査票にあるように「気づいた」という状況であれば，文末に「'で」があるほうが自然である．

2-7 昨日～さんが来たよ．

(a)

き'のー ど'ろさん きて'やってん

昨日 泥さん 来てやってん

(b)

き'の一 'かま'たさん き'てん
昨日 鎌田さん 来てん

2-8 昨日～さんは来なかったよ.

(a)

き'の一 'かげや'まさん きて'や な'かってん
昨日 蔭山さん 来てや なかってん

(b)

き'の一 'ふく'ださん こ'一へんかってん
昨日 福田さん 来うへんかってん

2-9 (私は) あのリンゴをもう食べた.

あの り'んご 'も一 'たべ'た
あの りんご もう 食べた

2-10 私はあのリンゴをまだ食べていない. / 私はあのリンゴをまだ食べない.

(a)

あの り'んご 'まだ 'たべて'へん
あの りんご まだ 食べてへん

(b)

あの り'んご 'まだ 'たべと'一へん
あの りんご まだ 食べとうへん

(c)

あの り'んご 'まだ 'たべ'へん
あの りんご まだ 食べへん

例 b の「たべと'一へん」は食べてしまっていてしかるべきものを食べてない状況について言う.

2-11 あの人は今 (ちょうど) そのリンゴを食べています / 食べているところです.

(a)

あの ひ'と 'いま その り'んご 'たべと'一
あの 人 今 その りんご 食べとう

(b)

あの ひ'と いま その り'んご 'たべと'ー と'こや
あの 人 今 その りんご 食べとう 所や

いずれも「'たべと'ー」が自然であるが、「'たべよ'ー」が言える場合もある。たとえば，食べるべきりんごをいまさらながら口にしている，などの特定の文脈があてはまる。ただし，これは井上(1993)などが報告する「軽卑表現」とは異なり，アスペクトのみが関わる選択になる。特に，対象について数量詞を用いて量化した場合，示される量まで動作が未達成の場合は「'たべよ'ー」が選ばれる。すなわち，(c)のような表現は，りんごを数個食べてしまっているが，十個食べ終わっていない状況を意味する。

なお，「十」の発音は例外的で，本来2モーラ語「と'ー」であるはずが常に3モーラの読み「とう'お」になり，かつ「と'ー'お」ではない。

(c)

あの ひ'と いま り'んご とう'お 'たべよ'ー
あの 人 今 りんご 十 食べよう

2-12 窓が開いている／窓が開いていた。

(a)

'まど' あいと'ー
窓 開いとう

(b)

'まど' あいと'った
窓 開いとった

状態を表す「ている形」の場合，「あっきよ'ー」とは言えない。「あっきよ'ー」は今まさに開きつつある状況を表したり，もうすぐ開くことを予測しながらの発話と理解される。

2-13 私は毎朝新聞を読む／読んでいる。

(a)

'わたし 'まいあ'さ 'しんぶん 'よんみよ'ー
私 毎朝 新聞 読んみよう

(b)

'わたし 'まいあ'さ 'しんぶん 'よんど'ー
私 毎朝 新聞 読んどう

「'よんみよ'ー」は「'よみよ'ー」とも言い，繰り返す習慣に注目する。一方，「'よんど'ー」は読んだ結果（新聞の内容について知っている，といったことなど）に注目する。

2-14 あなたは（あなたの）お母さんに似ている。

‘あんた ‘おか’一ちゃんに にと’ー
あんた お母ちゃんに 似とう

2-15 私はその頃毎日学校に通っていた。

(a)
‘わたし そんとき ‘まいに’ち ‘がっこ かよとつ’た
私 そん時 毎日 学校 通とつた

(b)
‘わたし そんとき ‘まいに’ち ‘がっこ かよいよつ’た
私 そん時 毎日 学校 通いよつた

(a)は学校に通うという反復・継続した行為があり、それがすでに完了したという発話である一方、(b)は学校に通うという反復・継続した行為の一部に焦点を当て、完了したかどうかは問わないという発話である。

2-16 私は～に（大きな街の名前など）行ったことがある。

‘わたし こ’ーべ いっ’た こ’と ‘ある
私 神戸 行った こと ある

2-17 やっとバスは走り出した／走り始めた。

やっ’と ば’す はしりだっしょ’た
やっ’と バス 走り出っしょ’た

2-18 昨日彼女はずっと寝ていた。

き’の一 あの ひ’と ずっ’と ねとつ’た
昨日 あの 人 ずっと 寝とつた

「彼（女）」は口語としては用いない。このため、「あの ひ’と」で代用する。以下同じ。

2-19 私はそれをちょっと食べてみた。

‘わたし それ ちょっ’と ‘たべてみ’た
私 それ ちょっ’と 食べてみた

2-20 あの人はそれ（ら）をみんなに分け与えた。

あの ひ'と それ[ら] 'みんなに 'わけた'げた
あの 人 それ[ら] みんなに 分けたげた

「'わけた'げた」は「分けてあげた」のことである。授受動詞は「やる」「あげる」「もらう」をしばしば付加して表現する。

2-21 さあ、（私たちは）行くよ！

さ'ー いく 'で
さあ 行く で

2-22 地球は太陽の周りを回っている。

'ちきゅーわ 'たい'よーの ぐ'るり まわっと'る
地球は 太陽の ぐるり 回っとる

2-23 あの木は今にも倒れそうだ。

あの 'きー もうちょ'いで たおれよ'ー 'で
あの 木ー もうちょいで 倒れよう で

2-24 （私は）あやうく転ぶところだった。

(a)
もうちょ'いで こけよっ'た
もうちょいで こけよった

(b)
もうちょ'いで こけとっ'た
もうちょいで こけとった

(a)は転ぶ前条件となる「つまづく」などの事象さえも経験しなかったことを意図し、(b)はつまづく動作はあったけれども、地面に倒れこむところまで達していなかったことを意図する。

2-25 明日客が来るので、パンを買っておく。

あした 'おきゃくさん きて'やさかい ぱ'ん こーとく
明日 お客さん 来てやさかい パン 買うとく

この例の「きて」は「来る」の「て形敬語」である。

2-26 (私は) ～に (街とか市場とか) 行ったとき, この袋を買った.

かこがわ いっ'た と'き この ふく'ろ こ'ーた
加古川 行った 時 この 袋 買うた

2-27 (私は) ～に (街とか市場とか) 行く時／行く前に, この袋を買った.

(a)
おーさか いく と'き この ふく'ろ こ'ーた
大阪 行く 時 この 袋 買うた

(b)
ひめじ いく ま'え この ふく'ろ こ'ーた
姫路 行く 前 この 袋 買うた

「いく と'き」とは「行くにあたって」の意味に近く, 「行く前」と同じような意味で用いる一方, 「行く道中で」という意味では解釈しない.

2-28 (私は) 彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた.

あの ひ'と 'いちばで この ふく'ろ こ'ーたん 'し'と'った
あの 人 市場で この 袋 買うたん 知'と'った

3. 「モダリティ」(語研論集 第16号)

3-1 (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ.

'もー か'えって 'えー 'で
もう 帰って ええ で

3-2 (腐っているから, あなたは) それを食べてはいけない／それを食べるな.

それ 'たべ'た[ー] あかん
それ 食べた[ー] あかん

「'たべ'たー」は末尾に1モーラ増えるのが自然であるが, 「'たべ'た あかん」も言う. この長音部分は「ら」に由来する可能性がある(「食べたら」; 「'たべ'たら あかん」は許容されるが, 播磨方言の形式としては違和感がある)が, 条件の「たら」は「たー」にならない. 調査票にあるように, 「～ては」に対応する形式が「たー」に対応するように見える.

3-3 （遅くなったので）私たちはもう帰らなければならない。

(a)

‘わたし’ら ‘もー かえらんと あかん
私ら もう 帰らんと あかん

(b)

‘わたし’ら ‘もー かえら’な あかん
私ら もう 帰らな あかん

「なければならない」に相当する言い方は「～んと あかん」または「～な あかん」である。(3-2)の形式では意味が逆になり、「かえった[一] あかん」は「帰ってはいけない」を意味する。

3-4 （雨が降るそうだから）傘を持って出かけたほうがいいよ。

‘かさ’もって でてっ’た ほ’ーが ‘えー’で
傘 持って 出てった ほうが ええ で

3-5 歳をとったら、子供の言うことを聞くべきだ／聞くものだ。

と’し ‘とった’ら こどもの ゆーこ’と きか’な あかん
歳 とったら 子供の 言うこと 聞かな あかん

「すべき」という表現に対しては、「せ’な あかん」が対応する。(3-3-a)にある表現「せんと あかん」は不自然であると判断される。

3-6 お腹が空いたので、(私は) 何か食べたい。

‘おなか’す’いたから ‘なん’か ‘たべた’い
お腹 空いたから 何か 食べたい

3-7 私が持ちましょう。

(a)

‘わたし’もつ’で
私 持つ で

(b)

‘わたし’もとか
私 持とか

例 b の場合，上昇調が強調されると，許可を求める文になる。

3-8 じゃあ、一緒に昼ご飯を食べましょう。

ほん'なら いっしょに 'おひ'る 'たべ'よか
ほんなら 一緒に お昼 食べよか

丁寧な表現としては、「たべよか」が「たべまほか」になる。

3-9 一緒に昼ご飯を食べませんか？

'いっしょに 'おひ'る 'たべ'へん[↑]
一緒に お昼 食べへん

上昇調がなければ否定文になる。

3-10 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。

あした 'えー て'んきに 'なった'ら 'えー な'ー
明日 ええ 天気に なったら ええ なあ

3-11 (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。

(a)

す'ぐ それ 'もって き'ー[↓]
すぐ それ 持って 来い

(b)

す'ぐ それ 'もって きてか
すぐ それ 持って 来てか

(a)は通常の命令，(b)は「て形敬語」を含む命令の形式である。(b)は敬語形式を用いているとはいえ、命令に敬意が含まれているとはいえないが，(a)よりは丁寧な発話である。

3-12 そのペンをちょっと貸していただけませんか？

その ペん ち'と かして もら'えへんか[↑]
その ペン ちと 貸して もらえへんか

「ち'と」は「ちよっ'と」という形式も用いられる。

3-13 あの人は中国語が読めます。／あの人は中国語を読むことができます。

(a)

あの ひ'と 'ちゅーごくご 'よめる
あの 人 中国語 読める

(b)

あの ひ'と 'ちゅーごくご よー 'よむ
あの 人 中国語 能う 読む

3-14 明かりが暗くて、ここに何が書いてあるのか，読めない。

あかり く'ろて 'ここ 'なに 'かいと'んのか よー 'よまん
明かり 暗て ここ 何 書いとんのか 能う 読まん

「かいと'んのか」は「かいた'[一]んのか」（書いてあんのか）という形式も用いられる．状況可能の文脈における否定は，通常「よー 'よまん」が用いられ，「よめ'へん」は使わない．この文脈では，「よー 'よまん」の代わりに「めー'へん」（見えない）も用いられ，かつより自然であるという．動詞「見える」の場合は，「へん」による否定のみが用いられる．

3-15 （朝早く出発したから）彼らはもう着いているはずだ／もう着いたに違いない。

(a)

あの ひ'とら 'もー 'ついと'ー はず'や
あの 人ら もう 着いとう はずや

(b)

あの ひ'とら 'もー 'ついと'んと ちがう[△]
あの 人ら もう 着いとんと 違う

例 b で上昇調がなければ否定文「着いているのではない」となる。

3-16 （あの人は）明日はたぶん来ないだろう。

あした たぶん こ'ーへんやろ
明日 たぶん 来うへんやろ

3-17 彼らはまだ来ないなんて，きっと途中で車が壊れたんじゃないか。

あの ひ'とら 'まだ こ'ーへんやて 'とちゅ'ーで くるま めげと'ん ちがう
あの 人ら まだ 来うへんやて 途中で 車 めげとん 違う

語末のイントネーションを有意に上昇させる(↑)ことで、疑念の度合いを高く表現することができる。

3-18 (昼間だからあの人は家に) さあ、いるかもしれないし、いないかもしれない。

さ'ー な'ー お'るかもしれへんし お'らへんかもしれへん
さあ なあ おるかもしれへんし おらへんかもしれへん

3-19 (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。

(a)

'あんた ね'つ 'あるみ'たいや 'で
あんた 熱 あるみ'たいや で

(b)

'あんた ね'つ 'ありそ'や 'で
あんた 熱 ありそや で

3-20 (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。

(a)

あし'た 'あめ' 'ふるら'しー 'で
明日 雨 降るらしい で

(b)

あし'た 'あめ' 'ふる'んや て[一]
明日 雨 降るんや て[一]

(a)は天気予報の内容に評価を加えて情報を伝達している。一方、(b)は伝聞の形式で、天気予報にあった言葉を、話者の判断を交えずに聞き手に伝える言い方である。

3-21 もしお金があったら、あの車を買うんだけどなあ。

も'し 'おかね 'あつた'ら あの くるま かう'んやけど な'ー
もし お金 あつたら あの 車 買うんやけど なあ

3-22 もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。

も'し 'あんたが おしてくれと'らへんかったら 'そこ 'つけん'かったやろ
もし あんたが 教えてくれと'らへんかったら そこ 着けんかったやろ

「教える」は「おしえる」と発音するが、「て」がついた連用形「教えて」は「おして」になる。

3-23 （あの人は）街へ行きたがっている．

ま'ち いき'たい ゆーと'ー
街 行きたい 言うとう

3-24 僕にもそれを少し飲ませろ．

'ぼくに'も それ ちょっ'と 'のまして[か]
僕にも それ ちょっ'と 飲まして[か]

3-25 これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう．

(a)

これわ あの ひ'とに 'もってかせて
これは あの 人に 持ってかせて

(b)

これわ あの ひ'とに 'もってかせよか
これは あの 人に 持ってかせよか

3-26 そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい．

その てーぶるの うえの 'おかしわ 'あと'で 'たべ[な]
この テーブルの 上の お菓子は 後で 食べ[な]

文末に「な」があるほうが自然であると判断される．なお，「な」がついた場合，その直前にアクセント核がある（「たべ'な」）と禁止命令になり，「後で食べてはいけない（＝今すぐ食べろ）」の意味になる．

3-27 もっと早く来ればよかった．

もっ'と 'はよ き'た[一] よ'かった
もっと 早 来た[一] よかった

「き'た[一]」の部分は，通常は長音にはならないが，長く発音することもできる．

3-28 あなたも一緒に行ったら（どうですか）？

'あんた'も 'いっしょに いっ'たら
あんたも 一緒に 行ったら

3-29 オレがそんなこと知るか！

わしが そんな しるか いや
儂が そんな 知るか いや

「おれ」は使わないし聞かないらしいので、「わし」で代用した。

3-30 これを作った（料理した）のは、お母さんだよね？／いいえ、私が作ったのよ。

(a)

これ 'つくっ'たん 'おか'ーちゃんやん な'ー
これ 作ったん お母ちゃんやん なあ

(b1)

'いーや 'わたしが 'つくっ'てん 'で
いいや 私が 作ってん で

(b2)

ちがう 'で 'わたしが 'つくっ'てん 'で
違う で 私が 作ってん で

4. 「ヴォイス」（語研論集 第17号）

4-1-a （風などで）ドアが開いた。

とー あっきよっ'た
戸ー 開っきよった

4-1-b （彼が）ドアを開けた。

とー あ'けた
戸ー 開けた

4-1-c （入り口の）ドアが開けられた。

とー あ'いた
戸ー 開いた

「あ'いた」の代わりに「あけら'れた」が用いられると、「開けてもらっては困るドアを開けられた」というような被害者意識を含意する。すなわち、受け身の意味で「あけら'れた」は用いない。

4-1-d ドアが壊れた.

とー こわ'れた
戸ー 壊れた

4-2 私は（自分の）弟を立たせた.

'わたし おとと 'たた'した
私 弟 立たした

使役の表現は「～せる」ではなく「～す」を用いる.

4-3 私は（自分の）弟に歌を歌わせた.

'わたし おととに う'ta うたわ'した
私 弟に 歌 歌わした

4-4-a （遊びたがっている子供に無理やり）母は子供をパンを買いに行かせた.

'おか'ーちゃん こどもに ぱ'n かいに いか'した
お母ちゃん 子供に パン 買いに 行かした

4-4-b （遊びに行きたがっているのを見て）母は子供に遊びに行かせた.

'おか'ーちゃん こども 'あそびに いか'した
お母ちゃん 子供 遊びに 行かした

4-5-a 私は弟に服を着せた.

'わたし おととに ふ'く き'した
私 弟に 服 着した

4-5-b 私は弟にその服を着させた.

'わたし おととに その ふ'く き'さした
私 弟に その 服 着さした

4-6 私は弟にその本をあげた.

'わたし おととに その ほ'n やっ'ta
私 弟に その 本 やった

4-7-a 私は弟に本を読んであげた.

‘わたし おととに ほん ‘よんだっ’た
私 弟に 本 読んだった

4-7-b 兄は私に本を読んでくれた.

に‘ーちゃん ‘わたしに ほん ‘よんでく’れた
私 私に 本 読んでくれた

4-7-c 私は母に髪を切ってもらった.

‘わたし ‘おか‘ーちゃんに け‘ー ‘きっても’ろた
私 お母ちゃんに 毛ー 切ってもらた

4-8-a 私は（自分の）体を洗った.

‘わたし からだ あ’ろた
私 身体 洗た

4-8-b 私は手を洗った.

‘わたし ‘てー あ’ろた
私 手ー 洗た

4-8-c 彼は手を洗った.

あの ひ’と ‘てー あ’ろた
私 人 手ー 洗た

4-9 （自分のために）私はその本を買った.

‘わたし （‘じぶんの た’めに） ほん こ‘ーた
私 （自分の ために） 本 買うた

4-10 彼らは（／その人たちは）（互いに）殴り合っていた.

あの ひ’とら どつきおーとっ’た
あの 人ら どつき合うとっ’た

4-11 その人たちは（みんな一緒に）街へ行った．

その ひ'とら そ'ろて ま'ち いっ'た
その 人ら 揃て 街 行った

4-12 その映画は泣ける（その映画を見ると泣いてしまう）．

その え'ーが なける
その 映画 泣ける

4-13-a 私は卵を割った．

'わたし 'たま'ご わっ'た
私 卵 割った

4-13-b （うっかり落として）私はコップを割った／割ってしまった．

'わたし こっ'ぶ わって'もた
私 コップ 割ってもた

「うっかりして」という文脈では、「してしまう」に相当する表現を用いる必要がある．

4-14-a きとう私はコーヒーを飲みすぎて（飲みすぎたので）眠れなかった．

き'のー 'わたし 'こーひ'ー 'のみす'ぎて ね'れへんかった
昨日 私 コーヒー 飲みすぎて 寝れへんかった

コーヒーの発音が「'こーひ'」になる人もいる．3モーラの読みでも最終モーラの下降が見られるため，アクセント核が顕在する．

4-14-b きとう私は仕事がたくさんあって（たくさんあったので）眠れなかった．

き'のー 'わたし しごと 'ぎょーさ'ん 'あって ねるひま な'かった
昨日 私 仕事 ぎょうさん あって 寝る暇 なかった

「'ぎょーさ'ん」は「'じょーさ'ん」「'よーさ'ん」「'よー'け」「'よー'け」ともいう．「ねるひま な'かった」は徹夜したことを意味する．(4-14-a)のように「ね'れへんかった」というと，床に就いたが入眠できなかった可能性も含意する．

4-15 私は頭が痛い.

‘わたし あた’ま い’たいねん
私 頭 痛いねん

4-16 彼女は髪が長い.

(a)
あの ひ’と け’ー な’がい
あの 人 毛ー 長い

(b)
あの ひ’と け’ー ‘なごしと’ー
あの 人 毛ー 長しとう

4-17-a 彼は（別の）彼の肩をたたいた.

あの ひ’と べつの ひ’との ‘かた たたつきよ’た
あの 人 別の 人の 肩 叩つきよった

「肩を（とんとん）たたく」の場合は「たたく」であり、「どつく」ではない。「暴力を振るう」含意があれば、「どつく」を用いる.

4-17-b 彼は（別の）彼の腕をつかんだ.

あの ひ’と べつの ひ’との う’で つかみよ’た
あの 人 別の 人の 腕 つかみよった

「腕」は「‘てー」（手）ともいう.

4-18-a 私は彼がやって来るのを見た.

‘わたし あの ひ’と きょ’んの み’た
私 あの 人 来よんの 見た

4-18-b 私は彼が今日来ることを知っている.

‘わたし あの ひ’と ‘きょー ‘くん’の ‘し’と’ー
私 あの 人 今日 来んの 知っとう

4-19 彼は自分（のほう）が勝つと思った.

あの ひと 'じぶんが 'かつ お'もた
あの 人 自分が 勝つ 思た

4-20-a 私は（コップの）水（の一部）を飲んだ.

'わたし みず 'のんだ
私 水 飲んだ

4-20-b 私は（コップの）水を全部飲んだ.

'わたし みず ['ぜん'ぶ] 'のんで'もた
私 水 [全部] 飲んでもた

「'のんで'もた」と言うだけで対象物全部を指せる（完遂の読み）。ただし，同じ発音で「うっかり飲んでしまった」の意味も表すため，「全部」をはっきりと言うときには「'ぜん'ぶ」を加える。

4-21 彼は肉を食べない.

(a)

あの ひと に'く 'たべ'へん
あの 人 肉 食べへん

(b)

あの ひと に'く 'たべよ'らへん
あの 人 肉 食べよらへん

「'たべよ'らへん」は「食べる習慣がない」ことや「(肉が目の前にあっても) 食べようとしない」ことを特に表す。

4-22-a 今日は寒い.

'きょー[わ] さ'ぶい
今日[は] 寒い

「さ'ぶい」は「さ'むい」とも言える。

4-22-b 私は（何だか）寒い（私には寒く感じる）.

'わたし さ'ぶいねん
私 寒いねん

4-23 人がとても多かったことに私は驚いた。

ひと えらい 'ぎょーさん おっ'たん おどろいた
人 えらい ぎょうさん おったん 驚いた

「おっ'たん」は「おっ'て」とも言える。「おどろく」の対象が名詞である場合、格助詞「に」を必要とするが、名詞化助詞「ん」（「の」）で終わる名詞句の場合は「に」を用いない。

4-24 雨が降り始めた。

'あめ' 'ふってきよっ'た
私 降って来よった

「'ふってきよっ'た」は「'ふってつきよっ'た」と言う人もいる。「て」に促音が後続するのは、周辺の音環境（前後ともに促音がある）に影響されたものと考えられる。

4-25 この本はよく売れる。

(a)
この ほ'ん よ'ー うれる
この 本 良う 売れる

(b)
この ほ'ん よ'ー うれよ'ー
この 本 良う 売れよう

(c)
この ほ'ん よ'ー うれと'ー
この 本 良う 売れとう

(a)の「うれる」は断定的予測を示す。調査票の文がよく売れる現状を意図していると考え、と、「うれる」では表せない。(b)の「うれよ'ー」は今よく売れているという状況に注目し、(c)の「うれと'ー」は売れた結果がよいという状況に注目している。

5. 「所有・存在表現」(語研論集 第18号)

5-1 あの人青い目をしている。／青い目の人・目が青い人

(a)
あの ひ'と あ'おい 'めー しと'ー
あの 人 青い 目ー しとう

(b)

あ'おい 'めーの ひ'と
青い 目ーの 人

(c)

'めー あ'おい ひ'と
目ー 青い 人

(c)の「'めー あ'おい ひ'と」は目の周りが内出血している状態の人を指しうるが、それ以外の語順では「碧眼の人」以外の意味を持たない。

5-2 あの女 {は／の} 髪が長い・あの女は長い髪をしている／長い髪の女・髪の長い女

(a)

あの おんなの ひ'と け'ー 'なごしと'ー
あの 女の 人 毛ー 長しとう

(b)

な'がい け'ーの おん'な
長い 毛ーの 女

(c)

け'ー 'なごしと'ー おん'な
毛ー 長しとう 女

「け'ー」は「かみの'け」とも言う。また、「おん'な」を単独で主語にする場合は限られる。

5-3 あの人には髭がある。／髭の男

(a)

あの ひ'と ひげ 'ある
あの 人 髭 ある

(b)

ひげ 'ある おと'こ
髭 ある 男

「髭の男」とは言わない。「ひげ 'ある」または「ひげ 'はやしと'ー」（髭生やしとう）のように言う。

5-4 あの人には（見る）目がある。／見る目のある人

(a)

あの ひと 'みる'め 'ある
あの 人 見る目 ある

(b)

あの ひと 'えー'め しと'ー
あの 人 ええ目 しとう

(c1)

'みる'め 'ある ひと
見る目 ある 人

(c2)

'えー'め しと'ー ひと
ええ目 しとう 人

「'めー」単独では「見る目」の意味にはならず、「'めー 'ある」は「目玉がある」の意味になる。また、「'めー 'えー」は「視力がよい」の意味である。一方、例に示した「'えー'め」は「見る目がある」のほかに「美しい目」「視力のよい目」の意味があるが、後2者は「'えー 'めー」と交替できる。

5-5 あの人は22歳だ。／22歳の人

(a)

あの ひと に'じゅー に'さいや
あの 人 二十 二歳や

(b)

あの ひと に'じゅー 'にー'や
あの 人 二十 二ーや

(c)

に'じゅー に'さいの ひと
二十 二歳の 人

年齢を話題にしている場合は、(b)のように「歳」を言わないのが通例である。

5-6 あの人は優しい性格だ。／優しい性格の人

(a)

あの ひ'と やさ'しー ['せーかく'や]

あの 人 優しい [性格や]

(b)

やさ'しー ['せーかくの] ひ'と

優しい [性格の] 人

この文における「性格」はなくてもよい。

5-7 あの人は背が高い。／背の高い人

(a)

あの ひ'と せ'ー た'かい

あの 人 背ー 高い

(b)

せ'ー た'かい ひ'と

背ー 高い 人

(5-2)と違い、「せ'ー た'かい」とは言わない。言えるとすれば、ヒール靴などを履いた人を描写するときなどに限られる。

5-8 あの人は背が 190 センチもある。

(a)

あの ひ'と せ'ー ひやく 'きゅーじゅっせ'んちも 'ある

あの 人 背ー 百 九十センチも ある

(b)

あの ひ'と せ'ー ひやくきゅ'ーじゅーも 'ある

あの 人 背ー 百九十も ある

身長が話題の文脈で、「センチ」まで口にすることは少ない。

5-9 その石は四角い形をしている。／四角い（形の）石

(a)

その い'し しか'くい かたち しと'ー

その 石 四角い 形 しとう

(b)

しか'くい い'し

四角い 石

5-10 あの人には才能がある。／才能のある人

(a)

あの ひ'と さいのー 'ある

あの 人 才能 ある

(b)

さいのー 'ある ひ'と

才能 ある 人

5-11 あの人は病気だ。／あの人は熱がある。／病気の人

(a)

あの ひ'と びょーき'や

あの 人 病気や

(b)

あの ひ'と ね'つ 'ある

あの 人 熱 ある

(c)

びょーきの ひ'と

病気の 人

5-12 あの人は青い服を着ている。／青い服の男

(a)

あの ひ'と あ'おい ふ'く きと'ー

あの 人 青い 服 着とう

(b)

あ'おい ふ'く きと'ー おと'こ

青い 服 着とう 男

「青い服の男」とは通常は言わない。

5-13 あの人はメガネをかけている．／メガネの男

(a)

あの ひ'と め'がね 'かけと'ー
あの 人 眼鏡 かけとう

(b)

め'がねの おと'こ
眼鏡の 男

(5-12)と異なり，通常は「眼鏡の男」と言う．

5-14 あの人には妻がいる．／既婚の人・妻のいる人

(a)

あの ひ'と よめはん いてる
あの 人 嫁はん いてる

(b)

けっこんしと'ー ひ'と
結婚しとう 人

(c)

よめはん いてる ひ'と
嫁はん いてる 人

この例文では「いてる」と言い，「いと'ー」は言わない．て形敬語を用いた「いて'や」とは言うことが可能で，(c)の場合は「いてる」が「いての」となる．なお，「いてる」は「お'る」と交替可能である．

5-15 あの人には3人子供がいる．／3人の子持ちの人・あの人の3人の子供／妊娠している女性

(a)

あの ひ'と こども 'さんに'ん お'る
あの 人 子供 三人 おる

(b)

こども 'さんに'ん お'る ひ'と
子供 三人 おる 人

(c)

あの ひ'との 'さんに'んの こー
あの 人の 三人の 子ー

(d1)

こども 'おなかに おる おんなの ひ'と
子供 お腹に おる 女の 人

(d2)

'おめでたの おんなの ひ'と
おめでたの 女の 人

(a, b)では、「おる」の代わりに「いてる」も用いられる。(5-14)の「妻」の事例では「いてる」が一般的であるが、(5-15)の「子供」の事例では「おる」が一般的である。

5-16 タコには足が 8 本ある。

た'こわ あ'し 'はっぽん 'ある
タコは 足 八本 ある

「八本」には「は'ちほん」の読みもある。「'ある」を省略する発話の場合、「八本」は「は'ちほん」の読みしかない。

5-17 その飲み物にはアルコールが入っている。／アルコール入りの飲み物

(a)

その 'のみも'ん あるこーる 'はいっと'ー
その 飲みもん アルコール 入っとう

(b)

あるこーる 'はいっと'ー 'のみも'ん
アルコール 入っとう 飲みもん

5-18 あの人はお金を持っている。／お金持ちの人

(a)

あの ひ'と 'おかね 'もっと'ー
あの 人 お金 持っとう

(b)

かねも'ちの ひ'と
金持ちの 人

5-19 おまえのところには犬がいるか？／犬のいる人

(a1)

‘あんたん と’こ いぬ おるん[↑]
あんたん 所 犬 おるん

(a2)

‘あんたん と’こ いぬ おるこ[↑]
あんたん 所 犬 おるこ

(b)

いぬ おる ひ’と
犬 おる 人

飼っているか否かを尋ねる場合，「おる」とともに「こーと’ー」（飼うとう）を使うことが多い．また，(5-19)の文脈では「いてる」は使わない．(a1)の文末の「ん」は有意に長く発音される．(a2)の文末の「こ」は疑問標識（「か」に相当）で，同一方言区域においても使う人と使わない人がいる．

5-20 おまえは（自分の）ペンを持っているか？／ペンを持っている人

(a)

‘あんた ペ’ん ‘もっと’ん[↑]
あんた ペン 持っ’とん

(b)

‘あんた ペ’ん ‘もっと’ー[↑]
あんた ペン 持っとう

(c)

‘あんた ペ’ん ‘ある[↑]
あんた ペン ある

(d)

‘あんた ペ’ん ‘あるこ[↑]
あんた ペン あるこ

(e)

ペ’ん ‘もっと’ー ひ’と
ペン 持っとう 人

(a)の文末の「ん」は有意に長く発音される．なお，「ペ’ん ‘ある[↑]」というのは，単なる所有・携帯の確認ではなく，「ペンを貸してほしい」ことを含意する．「ある’で」と答えるだけでは語用論的側

面から対話が成立しているとはいえない。

5-21 あの人は（誰か別の人の）ペンを持っている。

あの ひと ペン ‘もって’ー
あの 人 ペン 持っとう

5-22 あの人は運がいい。／幸運な人

(a)
あの ひと ‘うん ‘えー
あの 人 運 えー

(b)
‘うん ‘えー ひと
運 えー 人

5-23 ここは石が多い。／石の多い土地

(a)
‘ここ’わ いし お’ーい
ここは 石 多い

(b1)
いし お’ーい ‘とち
石 多い 土地

(b2)
いし ‘ぎょーさん ‘ある ‘とち
石 ぎょうさん ある 土地

「お’ーい」は「‘ぎょーさん ‘ある」と交代可能である。

5-24 その部屋には椅子が3つある／3つ椅子のある部屋

(a)
その へや いす みっつ ‘ある
その 部屋 椅子 三つ ある

(b)
いす みっつ ‘ある へや
椅子 三つ ある 部屋

(a)のように述語の一部として現れる場合（「その部屋の椅子は，3つある」）は「みつつ」，(b)のように名詞を修飾する数量表現に現れる場合（「3つの椅子がある部屋」）は「みっ'つ」になる傾向がある．

5-25 テーブルの上にスプーンがある．／スプーンのあるテーブル

(a)

てーぶるの うえに 'すぶ'ん 'ある
テーブルの 上に スプン ある

(b)

'すぶ'ん 'ある てーぶる
スプン ある テーブル

「スプーン」という語は，常に長音を持たない「'すぶ'ん」という発音になる．

5-26 そのスプーンはテーブルの上にある．／テーブルにあるスプーン

(a)

その 'すぶ'ん てーぶるの うえに 'ある 'で
その スプン テーブルの 上に ある で

(b)

てーぶるの うえに 'ある 'すぶ'ん
テーブルの 上に ある スプン

調査票の例文が意図する内容に照らして，(a)の場合は情報伝達の観点から文末に「'で」がないと意味をなさない．

5-27 そのペンは私のだ．・そのペンは太郎のだ．／私のペン・太郎のペン

(a)

その ペ'ん 'わたし'のや
その ペン 私のや

(b)

その ペ'ん た'ろーのや
その ペン 太郎のや

(c)

'わたしの ペ'ん
私の ペン

(d)

た'ろーの ペ'ん
太郎の ペン

5-28 昨日、学校で火事があった。／私は明日用事があります。

(a)

き'の一 'がっこで か'じ 'あって'ん
昨日 学校で 火事 あってん

(b)

'わたし あした よーじ 'あん'ねん
私 明日 用事 あんねん

5-29 (この世には) お化けなんていない。

'おば'けなんか お'らへん
お化けなんか おらへん

この例の場合、「お'れへん」とは言えない。「お'れへん」は確認したうえで存在しないことを述べる性質がある。お化けの存在確認は困難であるという判断が働くと考える。なお、この事例では「いて'へん」は用いられない。

5-30 (そこには) 英語を話す人もいるが、話さない人もいる。

えーご しゃべる ひ'とも お'るけど しゃべ'らへん ひ'とも お'る
昨日 喋る 人も おるけど 喋らへん 人も おる

この文の「お'る」は「いてる」と交替しにくい。後者が使えるのは、調査票の場面指定である「そこには」が話者にとって現実に体験可能な場所を指している場合であるといえる。

5-31 私より英語ができる人は(ほかに／もっと)います。

'わたし'より えーご でける ひ'とわ お'る
私より 英語 でける 人は おる

この文の「お'る」は「いてる」と交替可能である。

5-32 ちょっとあなたにお願いがあります。

ちよっ'と 'あんたに 'おねがい 'あん'ねん
ちよっと あんたに お願い あんねん

5-33 冬の雨／東京の家

(a)

ふゆの ‘あめ’

冬の 雨

(b)

と一きょ一の いえ

東京の 家

(c)

と一きょん’ち

東京ん家

(b)は東京にある任意の家を指す一方，(c)は話者が東京に所有している・住んでいる家を特に指す．

5-34 彼の泳ぎ／犬の鳴き声／火山の爆発／車の運転／～の小説

(a)

あの ひ’との およ’ぎ

あの 人の 泳ぎ

(b)

いぬの なきご’え

犬の 鳴き声

(c)

か’ざんの ばくはつ

火山の 爆発

(d)

くるまの うんてん

車の 運転

(e)

‘みしま ゆきおの しょーせつ

三島 由紀夫の 小説

5-35 Xさん（固有名詞）のお母さん

たかおかさんの ‘おか’ーさん

高岡さんの お母さん

机の横に／机の前に／*机に（来て！）

(a)

‘つくえん よこ きてか
机ん 横 来てか

(b)

‘つくえん ‘まえ’ きてか
机ん 前 来てか

(c)

‘つくえん と’こ きてか
机ん 所 来てか

(c)において、「と’こ」を省略することはできない。「‘つくえん」の「ん」は「の」に由来する.

あの人の次

あの ひ’とん つ’ぎ
あの 人ん 次

5-36 バラの花びら

ばらの はな’びら
バラの 花びら

果物のナイフ

くだも’んの な’いふ
果物の ナイフ

紙の飛行機

か’みの ‘ひこ’ーき
紙の 飛行機

チューリップの絵

ちゅ’ーりっぷの ‘えー
チューリップの 絵

花の匂い

は'なの に'おい
花の 匂い

英文の手紙

えーぶんの てがみ
英文の 手紙

日本語の先生

にほんごの せ'んせ
日本語の 先生

井戸の水

'いど'の みず
井戸の 水

雨の日

'あめ'の ひ'ー
雨の 日ー

5-37 妹の花子／社長の田中さん

(a)

いもとの は'なこ
妹の 花子

(b)

しゃちよーの 'たな'かさん
社長の 田中さん

5-38 となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ（が昨日突然パンクしたんだって.）

となりん'ちの ともだちの 'おと'ーさんの くるまの た'いや
隣ん家の 友だちの お父さんの 車の タイヤ

6. 「他動性」(語研論集 第19号)

6-1-a 彼はそのハエを殺した.

あの ひ'と その はえ こ'ろした
あの 人 その ハエ 殺した

意味から文法関係が容易に推測可能な場合、格助詞は発話に現れないのが通例である.

6-1-b 彼はその箱を壊した.

あの ひ'と その はこ こ'わした
あの 人 その 箱 壊した

6-1-c 彼はそのスープを温めた.

あの ひ'と その す'ーぷ あった'めた
あの 人 その スープ 温めた

6-1-d 彼はそのハエを殺したが、死ななかった。(言えるか? 言えないか?)

(a)

あの ひ'と その はえ こ'ろしてんけど しんでな'かった
あの 人 その ハエ 殺してんけど 死んでなかった

(b)

あの ひ'と その はえ こ'ろしてんけど しんど'らへんかった
あの 人 その ハエ 殺してんけど 死んどらへんかった

「殺したが死ななかった」は言えないが、「殺したが死んでいなかった」(＝殺したと確信したけれども死んではいなかった)は言える. ただし、「ころして'へんやん」(＝(それじゃあ)殺してないだろ!)とツッコミが続く可能性がある.

なお、「しんでな'かった」の主語は「はえ」である. ただし「ハエを殺したら死刑」という文脈があれば「あの ひ'と」が死刑に処されず「しんでな'かった」解釈もありうる.

6-2-a 彼はそのボールを蹴った.

あの ひ'と その ぼ'ーる けった
あの 人 その ボール 蹴った

6-2-b 彼女は彼の足を蹴った。

(a)

あの おんなの ひ'と その ひ'との あ'し けっ'た
あの 女の 人 その 人の 足 蹴った

(b)

あの おんなの ひ'と その ひ'との あ'し けっ'りよっ'た
あの 女の 人 その 人の 足 蹴'りよった

「けっ'た」は蹴る動作の一部始終を確認しての発話で、「けっ'りよっ'た」は蹴る動作の一部を確認しての発話になる。蹴ることで足に止まっているハエを殺そうとしていた，などの場合も該当する。

6-2-c 彼はその人にぶつかった（故意に）。

あの ひ'と その ひ'とに 'ぶ'つかった'った
あの 人 その 人に ぶ'つかった'った

「'ぶ'つかった'った」（ぶ'つかってやった）は故意であることを明示的にし，かつその読みのみになる。「'ぶ'つかった」では，故意であるかどうかは判然としない。

6-2-d 彼はその人とぶつかった（うっかり）。

あの ひ'と その ひ'とに 'ぶ'つかって'もた
あの 人 その 人に ぶ'つかって'もた

なお，(6-2-c)も(6-2-d)も「'ぶ'つかかりよっ'た」と言える。第三者の意図が分からない状態での発話としては，この形が自然である。

6-3-a あそこに人が数人見える。

(a)

'あ'っこに ひ'と 'なん'に'んか 'み'える
あ'っこに 人 何'人'か 見え'る

(b)

'あ'っこに ひ'と 'なん'に'んか 'み'えよ'ー
あ'っこに 人 何'人'か 見え'よう

(c)

'あ'っこに ひ'と 'なん'に'んか 'み'えと'ー
あ'っこに 人 何'人'か 見え'とう

「'みえよ'ー」や「'みえと'ー」は相手に人がいることを伝えるときの発話になる。「'みえよ'ー」はこれから人もが増える可能性を示唆し、「'みえと'ー」は人がすでにいることを意図する。

6-3-b 私はその家を見た。

'わたし その いえ み'てん
私 その 家 見てん

6-3-c 誰かが叫んだのが聞こえた。

だれ'か さ'けんだん きこ'えた
誰か 叫んだん 聞こえた

6-3-d 彼はその音を聞いた。

あの ひ'と その お'と き'ーてん
あの 人 その 人に 聞いてん

6-4-a 彼は（なくした）カギを見つけた。

あの ひ'と か'ぎ みつ'けてん
あの 人 鍵 見つけてん

6-4-b 彼は椅子を作った。

あの ひ'と いす 'つくっ'てん
あの 人 椅子 作ってん

6-5-a 彼はバスを待っている。

あの ひ'と ば'す 'まっ'とー
あの 人 バス 待つとう

この例について、「'まっちょ'ー」は言いにくい。話者がバスの時刻表を知っていて、バスがしばらく来ないと分かっているときに、「彼」がバス停に来てしばらく動かない、という文脈などで使う形式となる。

6-5-b 私は彼が来るのを待っていた。

'わたし あの ひ'と 'くん'の 'まっ'とっ'てん
私 あの 人 来んの 待つとってん

6-5-c 彼は財布を探している。

(a)

あの ひ'と さいふ さがっしょ'ー
あの 人 財布 探っしょう

(b)

あの ひ'と さいふ さがしと'ー
あの 人 財布 探しとう

6-6-a 彼はいろんなことをよく知っている。

あの ひ'と 'いろいろ よ'ー 'しっと'ー
あの 人 いろいろ 良う 知っとう

6-6-b 私はあの人を知っている。

'わたし あの ひ'と 'しっと'ー
私 あの 人 知っとう

6-6-c 彼はロシア語ができる。

あの ひ'と 'ろっしやご でける
あの 人 ロッシャ語 でける

6-7-a あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか？

'あんた き'のー 'わたしが ゆ'ーた こ'と おぼえと'ー
私 昨日 私が 言うた こと 覚えとう

「わたしが」の「が」は直後の動詞「ゆ'ーた」の行為者であることを明らかにしている。本稿の多くの例文が示す「が」のない表現とは異なり、この例において「が」の省略は許容度が下がるという。一方、語順を変えた「き'のー 'わたし ゆ'ーた こ'と 'あんた おぼえと'ー」であれば、「が」の使用に違和感があるという。

文末の上昇調は必須で、ない場合は聞き手が覚えていることを述べている。この文については、文末に「か」を付加するタイプの表現が通常用いられず、用いられる場合は確認の意味が強く出る。

6-7-b 私は彼の電話番号を忘れてしまった。

'わたし あの ひ'との でんわば'んご わすれて'もた
私 あの 人の 電話番号 忘れてもた

6-8-a 母は子供たちを深く愛していた。

‘おか’ーちゃん こども’ら え’らい すっ’きやった
お母ちゃん 子供ら えらい 好っきやった

6-8-b 私はバナナが好きだ。

‘わたし ば’なな すっ’きや
私 バナナ 好っきや

6-8-c 私はあの人が嫌いだ。

‘わたし あの ひ’と きらい’や
私 あの 人の 嫌いや

6-9-a 私は靴が欲しい。

‘わたし く’つ ほ’しーねん
私 靴 欲しいねん

「ほ’しー」で文を終えると、靴屋の前や靴のカatalogを見ながらの発話になる。

6-9-b 今、彼にはお金が要る。

‘いま あの ひ’と ‘おかね いる’んや て
今 あの 人の お金 要るんや て

第三者が「必要としている」場合、伝聞標識「て」があるほうが自然である。

6-10-a (私の) 母は(私の) 弟がうそをついたのに怒っている。

‘おか’ーちゃん おととが ‘うそ’ ‘つきやがったんに おこっと’ー
お母ちゃん 弟が うそ つきやがったんに 怒っとう

6-10-b 彼は犬が怖い。

あの ひ’と いぬ こ’わいんや て
あの 人 犬 怖いんや て

第三者の内的感覚である「怖い」は、そのままで文を終えると不自然で、伝聞標識「て」がつく（参考：Suzuki 2024）。

6-11-a 彼は父親に似ている.

あの ひ'と ちちおやに にと'ーな
あの 人 父親に 似とうな

6-11-b 海水は塩分を含んでいる.

(a)

かいすいわ え'んぶん ふくんど'ー
海水は 塩分 含んどう

(b)

かいすい ゆ'ーたら え'んぶん ふくんど'ー
海水 言うたら 塩分 含んどう

この例文の取り立て詞は，(1-1-b)のような「な」では不自然である.

6-12-a 私の弟は医者だ.

'わたしの おとと いしや'や
私の 弟 医者や

6-12-b 私の弟は医者になった.

'わたしの おとと いしやに 'なつて'ん
私の 弟 医者に なつてん

6-13-a 彼は車の運転ができる.

あの ひ'と くるま うんてん でける
あの 人 車 運転 でける

6-13-b 彼は泳げる.

あの ひ'と およげる
あの 人 泳げる

6-14-a 彼は話をするのが上手だ.

あの ひ'と はな'し すん'の たっしや'や
あの 人 話 すんの 達者や

6-14-b 彼は走るのが苦手だ.

あの ひ'と はしん'の へた'や
あの 人 走んの 下手や

6-15-a 彼は学校に着いた.

あの ひ'と 'がっこ[に] 'ついた
あの 人 学校[に] 着いた

6-15-b 彼は道を渡った／横切った.

(a)
あの ひ'と みち わ'たった
あの 人 道 渡った

(b)
あの ひ'と みち よこぎ'った
あの 人 道 横切った

6-15-c 彼はこの道を通った.

あの ひ'と この みち と'ーった
あの 人 この 道 通った

6-16-a 彼はお腹を空かしている.

あの ひ'と 'おなか すかしと'ー
あの 人 お腹 空かしとう

6-16-b 彼は喉が渴いている.

あの ひ'と 'のど かわいと'んや て
あの 人 喉 渴いとんや て

第三者の内的感覚に由来する「喉が渴いている」は、そのまま文を終えると不自然で、伝聞標識「て」がつく.

6-17-a 私は寒い.

'わたし さ'ぶいねん
私 寒いねん

6-17-b 今日は寒い.

‘きょー さ’ぶい
今日 寒い

6-18-a 私は彼を手伝った／助けた.

‘わたし あの ひ’と てつ’どた
私 あの 人 手伝どた

「てつ’どた」は(1-9)で示したように、「てつど’一た」（アクセント核の位置に注意）から1モーラ縮減した言い方と見てよいが、「てつど’一た」は改まった表現とみなされ，使う場面が限られるという．

6-18-b 私は彼がそれを運ぶのを手伝った.

‘わたし あの ひ’とが それ はこぶ’ん てつ’どた
私 あの 人が それ 運ぶん 手伝どた

6-19-a 私はその理由を彼に聞いた.

‘わたし その ‘わけ’ あの ひ’とに き’一た
私 その 訳 あの 人に 聞いた

6-19-b 私はそのことを彼に話した.

‘わたし その こ’と あの ひ’とに しゃ’べった
私 その こと あの 人に 喋った

6-20-a 私は彼と会った.

‘わたし あの ひ’とと ‘お一た
私 あの 人と 会うた

7. 「(連用修飾的) 複文」(語研論集 第20号)

7-1 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる.

あの ひ’と ‘いっつ’も ‘しんぶん’ ‘よみながら’ ご’はん ‘たべよ’一
あの 人 いっつも 新聞 読みながら ごはん 食べよう

7-2 (私は) 昨日は九時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。

き'の一わ く'じに いえ か'えって ちょつ'と て'れび み'て ね'た
昨日は 九時に 家 帰って ちょっと テレビ 見て 寝た

7-3 (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

き'の一 かいだんで こ'けて け'が して'もた
昨日 階段で こけて 怪我 してもた

7-4 今日父は会社に行って、兄は大学に行った。

'きょー'も 'おと'ーさんわ 'かいしゃ いっ'て
今日も お父さんは 会社 行って
に'ーちゃんわ 'だい'がく いっ'た
兄ちゃんは 大学 行った

7-5 (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。

'きょー'わ 'ぼーし か'ぶって 'あるい'とっ'た
今日は 帽子 かぶって 歩いとった

7-6 (私は) 休みの日にはいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

やすみの ひ'ーわ 'いっ'つも ほ'ん 'よんだ'り て'れび み'たり しと'ー
休みの 日ーは いっ'つも 本 読んだり テレビ 見たり しとう

7-7 時間がないから、急いで行こう。

じ'かん 'ない'から い'そいで いこ
時間 ないから 急いで 行こ

7-8 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

き'の一わ あた'ま いと'ーて ふ'だんより 'はよ ね'てん
昨日は 頭 痛うて 普段より 早 寝てん

7-9 あの人は本を買いに行った。

あの ひ'と ほ'ん かいに いっ'た
あの 人 本 買いに 行った

7-10 （彼は）外がよく見えるように窓を開けた。

‘そと’が よ’ー ‘みえる よ’ーに ‘まど’ あ’けてん
外が 良う 見える ように 窓 開けてん

7-11 ここでは夏になると，よく雨が降ります。

‘ここ な’つん なった’ら よ’ー ‘あめ’ ‘ふん’ねん
ここ 夏ん なったら よう 雨 降んねん

7-12 窓を開けると，冷たい風が入って来た。

‘まど’ あ’けたら つめ’たい かぜ ‘はいってきよ’た
窓 開けたら 冷たい 風 入って来よった

7-13 坂を上ると，海が見えた。

さ’か あ’がったら ‘うみ’ ‘みえ’た
坂 上がったら 海 見えた

7-14 明日雨が降ったら，私はそこに行かない。

あし’た ‘あめ’ ‘ふった’ら ‘そこ いかん’とこ
明日 雨 降ったら そこ 行かん’とこ

7-15 もっと早く起きればよかったなあ。

もっ’と ‘はよ ‘おき’たら よ’かった な’ー
もっと 早 起きたら よかった なあ

7-16 あんなところへ行かなければよかった。

あんな と’こ いかん’かったら よ’かった
あんな 所 行かん’かったら よかった

7-17 1に1を足せば，2になる。

いちに いち た’したら ‘にーに ‘なる
一に 一 足したら 二ーに なる

7-18 駅に着いたら電話をしてください.

えき 'ついた'ら でんわ してな
駅 着いたら 電話 してな

7-19 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ.

にっちょー 'なった'ら 'みん'なで こーえん いき'たい な'ー
日曜 なかったら みんなで 公園 行きたい なあ

7-20 明日雨が降ったら困るなあ.

あした 'あめ' 'ふった'ら こまん な'ー
明日 雨 降ったら 困ん なあ

7-21 家に来るなら、電話をしてから来てください.

うち 'くん'ねんやったら でんわ し'てから きてな
家 来んねんやったら 電話 してから 来てな

7-22 (もうすぐベルが鳴るので) 鳴ったら、教えてください.

なる'から おしてな
鳴るから 教てな

7-23 (もしかしたらベルが鳴るかもしれないので) もし鳴ったら、教えてください.

もし なっ'たら おしてな
もし 鳴ったら 教てな

(7-22)のように、ベルが鳴ることが確定しているという状況では、「なっ'たら」ではなく「なる'から」を用いる. 一方, (7-23)のように、ベルが鳴ることが確定していない状況では、逆に「なる'から」ではなく「なっ'たら」を用いる. 両者は交替できない.

7-24 働かざるもの食うべからず. / 働かない者は、食べるべきではない.

はたらか'へん も'ん 'くーた'ら あかん
働かへん 者 食うたら あかん

7-25 もう少しお金があつたらなあ.

もー'ちょい 'おかね 'あつた'ら な'ー
もうちょい お金 あつたら なあ

7-26 これも食べたら？

(a)
これ'も 'たべ'たら
これも 食べたら

(b)
これ'も 'たべ'れば
これも 食べれば

例(a)と(b)は，発話の意図に有意な違いはない．(a)の「たら」が表現として好んで使われるようであるが，「たら」で言い切るよりは，その後ろに「どない[や]」（どうか）といった疑問表現を付加するのがより自然であるという．

7-27 （やりたいなら自分の）好きなようにやれば？

'すきな よ'ーに しー
好きな ように しい

「しー」は必ず高く平板となることで，放任の含意を表す．文末を下げたり，「しー」のようにアクセント核が現れると，命令の口調になる．「しー」は「せー」と交替できるが，「しー」は「せー」にはならない．

7-28 このコップは落としても割れない．

(a)
この こ'っぷ お'としても わ'れへん
この コップ 落としても 割れへん

(b)
この こ'っぷ お'としても われよ'らへん
この コップ 落としても 割れよ'らへん

7-29 このリンゴは高かったのに，ちっとも甘くない．

この りんご 'たか'かったのに 'いっこ'も 'あも'ない
この りんご 高かったのに 一個も 甘ない

7-30 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

(a)

あの ひ'とんち いってみ'たけど お'れへんかった
あの 人ん家 行ってみたけど おれへんかった

(b)

あの ひ'とんち いってみ'たけど おら'なんだ
あの 人ん家 行ってみたけど おらなんだ

7-31 あの人が来るまで、私はここで待っています。

あの ひ'と 'くる'まで 'ここ'で 'まっとく'わ
あの 人 来るまで ここで 待っとくわ

7-32 あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ。

あの ひ'と 'くる'までに 'しょく'じ 'つく'とく 'で
あの 人 来るまでに 食事 作っとく で

8. 「情報構造と名詞述語文」(語研論集 第21号)

8-1 えっ、A(固有名詞)が来たの?/いや、AじゃなくてBが来たんだ。
(例えば、昨日の集まりに珍しくやって来た人についての会話で)

(a)

えっ はせがわ'くん き'たん
えっ 長谷川君 来たん

(b)

いや はせがわ'くんや の'ーて 'きた'だくん き'てん
いや 長谷川君や のうて 北田君 来てん

(a1)の文末の「ん」は有意に長く発音される。

8-2 誰が来たの?/Aが来たよ。

(a1)

だれ き'てん
誰 来てん

(a2)

だれ き'たん↗

誰 来たん

(b)

いもと き'てん

妹 来てん

例(a2)の「き'たん」は疑問文のみの形式である。また，例(a1)は文末が上昇調にならないが，例(a2)は必ず上昇調になる。

8-3 Aのほうが大きいんじゃないの？／いや，Aじゃなくて，Bのほうが大きいんだよ。

(a)

'はた'けの ほ'ーが おー'きいんと ちがう'ん↗

畑の 方が 大きいんと 違うん

(b)

いや 'はた'けや の'ーて 'たんぼの ほ'ーが おー'きーねん

いや 畑や のうて 田んぼの 方が 大きいねん

(a)の文末の「ん」は有意に長く発音される。

8-4 （電話で）どうしたの？／うん，今，お客さんが来たんだ。

(a)

どないし'たん↗

どないしたん

(b)

'あんな'ー 'いま 'おきゃくさん きて'やねん

あんなあ 今 お客さん 来てやねん

この例の「きて'やねん」は「来る」の「て形敬語」である。

8-5 あの子供がAを叩いたんだって!？／いや，Aじゃなくて，Bを叩いたんだよ。

(a)

あの こー いぬ どつ'いたん↗

あの 子ー 犬 どついたん

(b)

いや いぬや の'ーて ね'こ どつ'いてん
いや 犬や のうて 猫 どつ'いてん

(a)の文末の「ん」は有意に長く発音される.

8-6 赤い袋と青い袋があるけど、どっちを買うの? / (私は) 青い袋を買うよ.

(a)

あ'かい ふく'ろ と あ'おい ふく'ろ 'あん'ねんけど 'どっち かう'ん
赤い 袋 と 青い 袋 あんねんでど どっち 買うん

(b)

あ'おい ふく'ろ かう'わ
青い 袋 買うわ

(a)の文末の「ん」は有意に長く発音される.

8-7 Aはどこですか? / Aは朝からどっかへでかけたよ.

(a)

'おば'ーちゃん どこ
おばあちゃん どこ

(b)

'おば'ーちゃん 'あさ'から どっ'か いっ'と'ー 'で
おばあちゃん 朝から どっか 行っとう で

「いっ'と'ー」は出かけている状態に注目した言い方である. 「いっ'て'もた」も言えるが, 出ていくという動作に注目している.

8-8 (あの子供は) 誰を叩いたの? / (あの子供は) 自分の弟を叩いたんだ.

(a)

だれ どつ'いてん
誰 どつ'いてん

(b)

'じぶんの おとと どつ'いてん
自分の 弟 どつ'いてん

調査票の「自分」が話者を指す場合, 「どつきや'がってん」というのが自然である.

8-9 （電話で）どうしたの？／うん，A が（自分の）弟を叩いたんだ．

（例えば，電話の向こうで子供の泣き声が上がったのを聞いての発話）

(a)

どないし'たん

どないしたん

(b)

'あんな'ー しらん おっちゃんが おとと どつきや'がってん

あんなあ 知らん 叔父ちゃんが 弟 どつきやがってん

「どつきや'がってん」は被害者意識を表す．「ど'ついてん」でもよいが，自分の弟が叩かれたことを何の感情も抱かずに報告している冷淡な言い方になる．

8-10 あのケーキ，どうした？／（ああ，あれは）A が食べちゃったよ．

(a)

あの け'ーき どないし'てん

あの ケーキ どないしてん

(b)

ふじたくんが 'たべて'もた 'で

藤田君が 食べてもた で

「どないし'てん」は話者も聞き手も，ケーキがあった事実を前提とし，なくなった状況を特に尋ねている．「どないし'たん」を用いた場合，なくなっただけだろう（置く位置を変えただけだろう）や，ケーキがつぶれたりしている状況になった原因を尋ねるという意識がある．

8-11 私が昨日お店から買ってきたのはこの本だ．

'わたしが き'の一 'おみせで こーてき'たんわ この ほ'んや

私が 昨日 お店で 買うてきたんは この 本や

8-12 あの人は先生だ．この学校でもう 20 年働いている．

あの ひ'と せ'んせや

あの 人 先生や

この 'がっこで 'もー に'じゅーねんも はたらいと'ー

この 学校で もう 二十年も 働いとう

8-13 彼のお父さんは、あの人だ.

その ひ'との 'おと'ーさん あの ひ'とや
その 人の お父さん あの 人や

8-14 あの人が彼のお父さんだ.

あの ひ'とが その ひ'との 'おと'ーさんや
あの 人が その 人の お父さんや

8-15 あさってっていうのはね、明日の次の日のことだよ.

あさっ'て ゆ'ーたら な あし'たの つぎの ひ'ーや 'で
明後日 言うたら な 明日の 次の 日ーや で

8-16 (何人かが入った喫茶店で注文を聞かれて) 私はコーヒーだ.

'わたし 'こーひ'ー [や]
私 コーヒー [や]

「'こーひ'ー」は「や」を伴わない場合、3モーラの「'こーひ'」という読みもある。ただし、「や」があれば必ず4モーラの読みとなる。

8-17 [(注文した数人分のお茶が運ばれてきて) どなたがコーヒーですか?との問いに] コーヒーは私だ.

(a)

'こーひ'ー 'わたし'のや
コーヒー 私のや

(b)

'こーひ'ーわ 'わたし'や
コーヒーは 私や

この例の状況の場合、(a)のように「'わたし'の」という形式名詞形を用いることが通例と判断される。なお、「'わたしの」のようにアクセント核がない場合は、「の」は連体助詞の「の」の意味であるが、(a)の場合、「'わたしの'や」という読みは可能であるが、用いられる頻度は低いという。なお、(a)に限って3モーラの「'こーひ'」という読みが可能である。

8-18 その新しくて厚い本は（値段が）高い。

その あたら'しー ぶあ'つい ほ'んわ た'かい
その 新しい 分厚い 本は 高い

8-19 （砂糖入れを開けて）あっ，砂糖が無くなっているよ！

(a)

あっ さ'とー の一な'とー 'で
あっ 砂糖 失うな'とう で

(b)

あっ さ'とー 'あら'へんよーに 'な'とー ['で]
あっ 砂糖 有らへんように な'とう [で]

8-20 午後，誰かに会うはずだったなあ。誰だったっけ？ あっ，そうだ，～君だったな。

(a)

ひるから だれ'かに 'あう はず'やった な'ー
昼から 誰かに 会う はず'やった なあ

(b)

だれ'やったかいな あっ そ'ーや みやなが'くん 'やったな
誰'やったかいな あっ そうや 宮永君 やったな

9. 「情報標示の諸要素」（語研論集 第22号）

9-1 この土地は野菜がよく育つ。だから高い値段で売れるだろう。

この 'とちわ 'やさい よ'ー そだ'つねん せ'やから 'たこ うれる'やろ
この 土地は 野菜 良う 育つねん せ'やから 高 売れるやろ

この例文の場合，価格が高いのは「土地」でもあり「野菜」でもありうる。「そだつさ'かい」というように，理由を表す接続詞が直接ついた場合，価格が高いのは「土地」である読みが通例である。

9-2 私は頭が痛い。だから今日は休む。

あた'ま い'たいさかい 'きょ'わ やすむ
頭 痛いさかい 今日は 休む

文末に「'で」や「'わ」を付加して言うほうが自然である。(9-2)は調査票通りではなく，1つの文で言うのが自然である。(9-1)と異なり，文に切れ目を持たない発話のばあい，理由を表すのに「さかい」を用いる。

9-3 あの⼈だけ，時間通りに来た。

あの ひ'とだけ じかんど'ーりに き'た
あの 人だけ 時間通りに 来た

9-4 これはここでしか買えない。

これわ 'ここ'でしか かわ'れへん
これは ここでしか 買われへん

「かわ'れへん」は「か'えへん」ともいえるが，前者のほうがよく用いられる。

9-5 その家にいたのは子供ばかりだった。

その いえ おっ'たん こども 'ばっか'やった
その 家 おったん 子供 ばっかやった

9-6 次回こそ，失敗しないようにしよう。

つ'ぎこそ 'し'っぱい せんよ'ーに しよ
次こそ 失敗 せんように しよ

「しよ」は話者の強い意思を含意する。

9-7 疲れたね，お茶でも飲もう。

(a)

'えら'かった な'ー 'おちゃで'も 'のもか
えらかった なあ お茶でも 飲もか

(b)

'しんど'かった な'ー 'おちゃで'も 'のもか
しんどかった なあ お茶でも 飲もか

「'のもか」は勧誘及び話者の意思を含意する。「おちゃ」の代わりに「'おぶ'ー」という話者もいる。

9-8 水さえあれば，数日間は大丈夫だ。

みずだけ 'あった'ら 'なんにち'かんわ べ'っちよ'ない
水だけ あったら 何日間は 別状ない

9-9 小さい子供まで，その仕事の手伝いをさせられた.

こ'まい こー'まで その しごと てつだわさ'れた
小まい 子ーまで その 仕事 手伝わされた

9-10 私はお金なんか欲しくない.

(a)

'わたし 'おかね'なんか いらん
私 お金なんか いらん

(b)

'わたし 'おかね'なんか ほし'ない
私 お金なんか 欲しない

(c)

'わたし 'おかね'なんか ほ'しー 'ない
私 お金なんか 欲しい ない

なお，「～したくない」には，(b)と並行する「した'ない」のほかに「しと'ない」及び後者の(c)に並行する「し'とー 'ない」という形式が用いられる.

9-11 自分の部屋ぐらい，自分できれいにしなさい.

(a)

'じぶんの へ'やぐらい 'じぶんで き'れーに し'ー
自分の 部屋ぐらい 自分で きれいに しい

(b)

'じぶんの へ'やぐらい 'じぶんで き'れーに せん'か
自分の 部屋ぐらい 自分で きれいに せんか

9-12 私にもちょうだい.

'わたしに'も ちょーだい
私にも ちょうだい

9-13 お父さんもう帰って来たね. お母さんは？

'おと'ーさん 'もー かえって き'た 'で 'おか'ーさんわ
お父さん もう 帰って 来た で お母さんは

9-14 誰か（が）電話してきたよ.

だれ'か でんわ してきよっ'た 'で
誰かに 電話 してきよった で

この例における「してきよっ'た」は、電話がかかってくる事象はあったものの、用件を伝達するなど電話をかけて達成すべき行為が実現されていない状況を表す。たとえば、「電話が鳴っただけで切れた状況」「電話を取ったが無言であった状況」「電話を取って会話したが、話したい相手が不在であったために相手が要件を伝えず切った状況」などが該当する。「してき'た 'で」であった場合、「用件はすでに聞いたが、相手が誰か聞き忘れた」などの状況を想定する。

9-15 誰かに聞いてみよう.

(a)
だれ'かに きーて 'みよか
誰かに 聞いて みよか

(b)
だれ'かに きーて 'みる'こゝ
誰かに 聞いて みるこ

(a)は丁寧語の場合、アクセントが高起式の「みまほか」に変わる。(b)は独り言に近い発話で用いる。

9-16 私のいない間に誰か来た?

'わたしの おらん まに 'だれ'か き'た'
私の おらん 間に 誰か 来た

9-17 誰か来たら、私に教えてください.

だれ'か き'たら 'わたしに おしてか
誰か 来たら 私に 教えてか

9-18 今日は誰も来るとは思わない。／今日は誰も来ないと思う.

(a)
'きょー'わ 'だれ'も 'くる'とわ おも'わへん
今日は 誰も 来るとは 思わへん

(b)
'きょー'わ 'だれ'も こ'んと おもー
今日は 誰も 来んと 思う

(c)

‘きょー’わ ‘だれ’も こーへんと おもー
今日は 誰も 来うへんと 思う

例(b), (c)における「おもー」の前の補文標識「と」は発話されるのが自然であるが，(1-10)にあるような引用文における補文標識の現れのように，「と」を言わない発話も許容できる．ただし，例(b)で「と」を発話しない場合，その直前の「ん」が2モーラ分の長さをもつ「こ’んん」のような音声実現になることがある．

9-19 そこには今誰もいないよ．

‘そこ ‘いま ‘だれ’も お’れへん ‘で
そこ 今 誰も おれへん で

9-20 （それは）誰でもできる．

‘だれで’も できる
誰でも できる

9-21 そんなこと（は），みんな知っているんじゃないか!?

そん’なん ‘みん’な ‘しっと’ん ちがう
そんなん 皆 知つとん 違う

9-22 そんなもの，誰が買うんだよ!? 誰も買うわけじゃないか！

そん’なん だれが かう’ねん ‘だれ’も かう ‘わけ’ ‘ない’やん
そんなん 誰が 買うねん 誰も 買う 訳 ないやん

9-23 君は英語がうまいね．

‘あんた えーご たっしや’や な’ー
あんた 英語 達者や なあ

9-24 君は退屈そうだね．

‘あんた たいくつそ’や な’ー
あんた 退屈そや なあ

9-25 明日も寒いらしいよ.

(a)

あしたも さ'ぶいらしい 'で
明日も 寒いらしい で

(b)

あしたも さ'ぶいんや て[一]
明日も 寒いんや て[一]

(c)

あしたも さ'ぶいらしいねん て[一]
明日も 寒いらしいねん て[一]

例文を伝聞表現であると解釈した場合は、(b)の言い方も可能である。(b)は「寒いんだって」という表現に直接的な対応関係がある。なお、(a)と(b)を組み合わせた(c)のような言い方もある。

10. 「否定、形容詞と連体修飾複文」(語研論集 第23号)

10-1 これは私の本ではない.

(a)

これ 'わたしの ほ'んや 'ない
これ 私の 本や ない

(b)

これ 'わたしの ほ'んと ちがう
これ 私の 本と 違う

「ちがう」は標準語の「違う」とは異なり、コピュラ文の否定の意味で用いる。「ちやう」という変異形を使う話者もいる。なお、標準語の「違う」には「ちごと'る」「ちごと'ー」が対応する場合が多い。

10-2 この部屋には椅子がない.

この へ'や いす 'ない
この 部屋 椅子 ない

この形で文を言い切る場合、「この部屋に」のように「に」をつけても自然である。上文の末尾に助詞「で」を付加すると「この部屋」が主題であることが明確になり、最も自然な発話となる。
なお、存在文の「ない」は(10-1)のように「ちがう」と交替することはない。

10-3 この部屋には一つも椅子がない.

(a)

この へ'や いす 'いっこ'も 'ない
この 部屋 椅子 一個も ない

(b)

この へ'や いす 'いっこ'も 'あら'へん
この 部屋 椅子 一個も あらへん

(c)

この へ'や いす 'いっこ'も 'あれ'へん
この 部屋 椅子 一個も あれへん

例(a)の場合，椅子がない状況を客観的に報告している場面が想定される．例(b)の場合，部屋をちょうど確認して初めて椅子がないことを知ったということを伝達することがある．ただし，例(a)，(b)間で常に有意な差を意図して使い分けるわけではない．例(c)の場合，「椅子があることが期待されていたのに反し，ない」ことや「椅子があることを確認していたが，ない」という含意がある．

10-4 その部屋には誰もいない.

(a)

その へ'や 'だれ'も お'らへん
その 部屋 誰も おらへん

(b)

その へ'や 'だれ'も お'れへん
その 部屋 誰も おれへん

(c)

その へ'や 'だれ'も い'ーひん
その 部屋 誰も いいひん

例(a)，(b)はそれぞれ(10-3-b)，(10-3-c)と並行した含意がある．

「その」が話題を受けた指示ではなく，具体的な場所を指示する（指さしなどを伴う）場合，「'そこ'の」というほうが自然である．

10-5 その本はこの部屋にない.

(a)

その ほん この へ'やに 'ない
その 本 この 部屋に ない

(b)

その ほん この へ'やに 'あら'へん
その 本 この 部屋に あらへん

(c)

その ほん この へ'やに 'あれ'へん
その 本 この 部屋に あれへん

10-6 この犬は大きくない.

この いぬ おーき'ない
この 犬 大きい

10-7 この犬はあまり大きくない.

この いぬ あんま[り] おーき'ない
この 犬 余[り] 大きい

10-8 この犬はあの犬より大きい.

この いぬ あの いぬ 'より' おー'きー
この 犬 あの 犬 より 大きい

10-9 この犬がその犬たちの中で一番大きい.

この いぬが その いぬらん 'なか'で いちばん おー'きー
この 犬が その 犬らの 中で 一番 大きい

「いちばん」を「いっちゃん」と言う人もいる.

10-10 今日はあの人是不来ない.

(a)

'きょー あの ひ'と こ'ん
今日 あの 人 来ん

(b)

'きょー あの ひ'と こ'ーへん
今日 あの 人 来うへん

10-11 あの人はその本を持って行かなかった。

あの ひ'と その ほ'ん 'もってかん'かった
あの 人 その 本 持ってかん'かった

10-12 全ての学生が参加しなかった。／学生は全員参加しなかった。

(a)

'すべ'ての がくせい 'さんか せ'なんだ
全ての 学生 参加 せ'なんだ

(b)

'すべ'ての がくせい 'さんか せ'ーへん'かった
全ての 学生 参加 せいへん'かった

(c)

がくせい 'みん'な 'さんか せ'なんだ
学生 皆 参加 せ'なんだ

(d)

がくせい 'みん'な 'さんか せ'ーへん'かった
学生 皆 参加 せいへん'かった

「せ'ーへん'かった」のほかにも「しよら'なんだ」も言う。「'すべ'て」が名詞の後ろに来る構造をとる場合、「'みん'な」がよく用いられる。

10-13 全ての学生が参加したわけではない。

がくせい 'みん'なが 'みん'な 'さんか し'たんと ちがう
学生 皆が 皆 参加 したんと 違う

10-14 （私は買わなかった。しかし、決して）値段が高いというわけではない。

(a)

ね'だん た'かい ゆー 'わけ' ちがう'ねん
値段 高い 言う 訳 違うねん

(b)

ね'だん た'かい ゆー 'わけ'や 'ない'ねん
値段 高い 言う 訳や ないねん

10-15 走るな！

(a)

はしん’な
走んな

(b)

は’しった あかん
走った あかん

10-16 大きな声を出すな！

(a)

お一’き一 ‘こえ’ ‘だす’な
大きい 声 出すな

(b)

お一’き一 ‘こえ’ ‘だした’一 あかん
大きい 声 出したあ あかん

(10-15)の「は’しった あかん」と異なり、「だした’一」は末尾に1モーラ増えるのが自然であるが、「だした あかん」も言う。

10-17 明日は雨は降らないだろう。

(a)

あし’た ‘あめ’ ‘ふら’へんやろ
明日 雨 降らへんやろ

(b)

あし’た ‘あめ’ ‘ふれ’へんやろ
明日 雨 降れへんやろ

(b)は(a)に比べて「雨が降らない」ことがより確かだと予測するか、強く期待しているときの発話になる。

10-18 あの人の聞こえないように、小さな声で話してくれ。

あの ひ’とに きこえんよ’一に ち一’さい ‘こえ’で はなしてく’れへんか
あの 人に 聞こえんように 小さい 声で 話してくれへんか

文末を上昇調（↑）で発音すると丁寧（依頼の意）を表現できる。

10-19 私はあなたを怒らせようと思ってそう言ったんじゃない。

(a)

‘わたし ‘あんた おこらせたろ お’もて そー ゆ’ーたんや ‘ない
私 あんた 怒らせたろ 思て そう 言うたんや ない

(b)

‘わたし ‘あんた おこらせたろ お’もて そー ゆ’ーたんと ちがう
私 あんた 怒らせたろ 思て そう 言うたんと 違う

「おこらせたろ お’もて」は「おこらせたろ’もて」と縮約するのが自然である。また，文末に「ねん」があるのが自然である。

10-20 私が昨日買ってきた本はどこ（にある）？

‘わたしが き’の一 こーてき’た ほ’ん どこ（[に] ‘あん’の）
わたしが 昨日 買うてきた 本 どこ（[に] あんの）

10-21 その本を持って来た人は誰（か）？

その ほ’ん ‘もってき’たん だれ（や）
その 本 持ててきたの 誰（や）

10-22 この部屋が私たちの仕事をしている部屋です。

この へ’やが ‘わたし’らの しごと しょ’ー へ’やです
この 部屋が 私らの 仕事 しょう 部屋です

「しょ’ー」を「しよ’ー」（3モーラ）で発音する人もいる。

10-23 足が一本折れたあの椅子はもう捨ててしまった。

あ’し ‘いっぽん ‘おれ’た あの いす ‘もー すてて’もた
足 一本 折れた あの 椅子 もう 捨ててもた

10-24 ドアを叩いている音が聞こえる。

(a)

とー たたつきよ’ー お’と きこえよ’ー
戸 叩きよう 音 聞こえよう

(b)

とー たたいと'ー お'と きこえよ'ー
戸 叩いとう 音 聞こえよう

「きこえよ'ー」は「きこえよ'ー で」のように言うほうが自然である。

(a)と(b)の違いは、前者が「叩く」という行為がこれからも（継続的[対応しないとこれから長時間叩き続けられることを予測するなど]または習慣的[毎日特定の時間に叩く人がいるなど]に）続くであろうことを意図し、後者が「叩く」という行為が一定時間継続したという点に注目していると解釈する。

10-25 あの人が結婚したという噂は本当（か）？

あの ひ'と けっこんしょった ゆー う'わさ 'ほんま? (なん?)
あの 人 結婚しょった 言う 噂 本真 (なん)

10-26 私はその人が来た時にご飯を食べていた。

その ひ'と きょった と'き ご'はん 'たべとった
その 人 来よった 時 ご飯 食べとった

10-27 私はその人が待っている所に行った。

その ひ'と 'まっと'ー と'こ いった
その 人 待とう 所 行った

「と'こ」は先行する語とともに1つのアクセント単位にまとまる形式（「'まっと'ーとこ」）も見られる。

10-28 私はその人が走っていったのを見た。

その ひ'と はしってったん み'た
その 人 走ってったん 見た

「み'た」は「み'てん」や「み'た で」のように言うほうが自然である。

10-29 昨日の夜、私は彼らがしゃべっているのを聞いた。

き'の一の 'よる' 'わたし あの ひ'とらが しゃべと'ん き'いた
昨日の 夜 私 あの 人らが しゃべとん 聞いた

「き'いた」は「き'いてん」や「き'いた で」のように言うほうが自然である。

10-30 私はその人が昨日ここに来たことを知っている。

その ひ'と き'のー 'ここ き'たん 'しっ'と'ー
その 人 昨日 ここ 来たん 知っとう

「'しっ'と'ー」は「'しっ'と'ー 'で」のように言うほうが自然である。

10-31 （昨日）彼は彼が今日ここに来たと言った。／（昨日）彼は、「私は今日ここに来た」と言った。

(a)

あの ひ'と じぶんが 'きょー 'ここ き'た ゆ'ーた
あの 人 自分が 今日 ここ 来た 言うた

(b)

あの ひ'とな 'わたし 'きょー 'ここ き'てん ゆ'ーた
あの 人な 「私 今日 ここ 来てん」 言うた

「ゆ'ーた」は「ゆ'ーてん」のように言うほうが自然である。

直接話法と間接話法の間における形態統語的な違いは、あまり明確ではない。(b)のように、直接話法では「き'てん」のように、第三者の発話が直接現れるのに対し、間接話法では「き'た」というように終助詞が落とされることがある。

10-32 私はリンゴが（あの）皿の上にあったのを食べた。

りんご な 'おさらの うえ 'あった や'つ 'たべ'た
りんご な お皿の 上 あった やつ 食べた

「'たべ'た」は「'たべ'てん」のように言うほうが自然である。

10-33 私はネコが家に入ってきたのを捕まえた。

(a)

ね'こ うちん'なか 'はいってきよ'たん 'つかま'えた
猫 家ん中 入って来よったん 捕まえた

(b)

ね'こ うちん'なか 'はいってきと'たん 'つかま'えた
猫 家ん中 入って来とったん 捕まえた

「'つかま'えた」は「'つかま'えてん」のように言うほうが自然である。(a)は「家に入ってきたつあるその瞬間の猫を捕まえた」であり、(b)は「完全に家に入りこんでいた猫を捕まえた」という含意がある。調査票の例文からは、どちらにも解釈できる。

付録

以下に志方町内の字名を本稿で記述した東志方の発音表記に従って掲げる。地名は方言研究で地点を明らかにする基礎作業であること、またその読みは独特で町ごとに異なる点もあり、場合によっては公式とされる読みとも異なりがあることから、一般の資料で代替できないため、ここにまとめて提示しておきたい。

町名

志方 志方町
し'かた しかた'ちょー

区域名

東志方 中志方 西志方
ひがしし'かた 'なかし'かた にしし'かた

東志方

細工所 高畑 広尾¹ 岡² 野尻
さいく'じょ 'たか'はた 'ひろ'ー おか 'のじ'り
大沢³ 行常 畑⁴ 東飯坂 東中⁵
お'ーざわ ゆきつね 'はた' ひがしい'ーざか ひがしなか
大宗
お'ーむね

中志方

志方町 投松 西飯坂 西中 上富木⁶
しかた'まち ねじ'まつ にしい'ーざか にしなか 'かみと'びき

西志方

横大路⁷ 西山 成井 原 山中
よこお'ーち にしやま 'なるい 'はら' やまなか
西牧 永室
'にし'まき な'がむろ

¹ 発話協力者の世代では、さらに「よ'しひろ」、「かしお」、「西山 にしやま」の地区に分ける。

² 同地区の裏手（東側）にある山の名前に基づき「城山 しroyama」とも呼ばれる。

³ 発話協力者の世代では、さらに「札馬 さつま」「投松 なげ'まつ」の地区に分ける。

⁴ 同地区にある法華山へ向かう分かれ道のあたりを「法華口 'ほっけ'ぐち」と呼ぶ人もいる。

⁵ 「東中村 ひがしな'かむら」とも呼ばれる。

⁶ 「富木 とび'き」とも呼ぶ人もいるが、本来この地名は志方町外にある。

⁷ 「よこ'ーち」と発音する人もいる。

参考文献

欧文

- Angeles, Andrew. 2023. *Endangered compound prosody in Kansai Japanese: Implications for the syntax-prosody interface*. Leiden: Brill. <https://doi.org/10.1163/9789004677647>
- Kishie, Shinsuke. 2021. Tone and accent in Japanese. In Mitsuaki Endo, Makoto Minegishi, Satoko Shirai, Hiroyuki Suzuki, and Keita Kurabe (eds.) *Linguistic atlas of Asia*, 241–245. Tokyo: Hituzi Syobo.
- Suzuki, Hiroyuki. 2024. Functional transition from HEAR to nonvisual sensory and hearsay evidential categories: A case study of rGyalthang Tibetan. *Functions of Language* 31.1: 63–89. <https://doi.org/10.1075/fol.22059.suz>
- Suzuki, Hiroyuki, Tashi Nyima, Sonam Wangmo, and Tsering Samdrup. 2024. Suprasegmental features of Lamo and its sister languages: With reference to Kansai Japanese. In Masaki Nohara and Takumi Ikeda (eds.) *Grammatical phenomena of Sino-Tibetan languages 6: Typology and historical change*, 67–86. Kyoto: Institute for Research in Humanities, Kyoto University. <http://hdl.handle.net/2433/289967>

和文

- 井上文子. 1993. 「関西中央部における「オル」・「～トル」軽卑化のメカニズム」『阪大日本語研究』5: 19–32. <https://hdl.handle.net/11094/7755>
- 定延利之. 2019. 『文節の文法』大修館書店.
- 真田信治（監修）. 2018. 『関西弁事典』ひつじ書房.
- 都染直也. 2018a. 「兵庫県の方言概説」真田信治（監修）83–91.
- 都染直也. 2018b. 「播州弁」真田信治（監修）123–124.
- 津田智史. 2022. 「動きや状態を表す表現---関西方言のアスペクト---」岸江信介・中井精一（編）『地図で読み解く関西のことば』180–195. 昭和堂.
- 福盛貴弘. 2022. 「大阪方言：特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報標示の諸要素」「否定，形容詞と連体修飾複文」」『語学研究所論集』27: 615–654. <https://doi.org/10.15026/125151>

執筆者連絡先：minibutasan[at]gmail.com

原稿受理日：2024年11月8日